

# 表題

名前

このテンプレートは SATySF<sub>I</sub> 0.0.5 用であり、SATySF<sub>I</sub> はいまだ開発段階にあるので、破壊的変更には注意すべし。

オンライン

- `demo.saty` is a brief introduction to SATySF<sub>I</sub>.
- Please join [SATySF<sub>I</sub> Slack!](#)
- SATySF<sub>I</sub> 本体に付属しているデモファイルも参考にすべし。

`+p { ... }` は段落を表す。細かく言えば、`+p` は行内テキスト `{ ... }` を引数として取る段落コマンドである。

行内数式は数式オブジェクト `#{ ... }` で表される。例:  $x^2 - x + 1$ 。

基本的な数式コマンドは L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X のものに似ている。例:  $f: A \rightarrow \mathbb{R}$ 。

数式コマンドや L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X のコマンドとは異なり、行内コマンドや段落コマンドは終端文字 `;` を要する。但し、最後の引数が行内テキスト `{ ... }` か段落テキスト `< ... >` である場合を除く。例: `emph`、`code`。

テキストコマンドの各引数は括弧で囲まれる。例: `abc`、`abc`。

別行立て数式は `\eqn` に数式オブジェクトを適用することで得られる。例:

$$\int_M d\alpha = \int_{\partial M} \alpha.$$

同様に別行立てコード例は `\d-code` で得られる。

```
\eqn({
  \int_{M} d\alpha = \int_{\partial M} \alpha
});
```

`\math-list` コマンドは数式オブジェクトの排列を一つ引数として取る。

$$\delta_{ij} = \begin{cases} 1 & i = j \\ 0 & \text{otherwise} \end{cases} \qquad \varepsilon_{a_1 a_2 \dots a_n} = \prod_{1 \leq i \leq j \leq n} \operatorname{sgn}(a_j - a_i)$$

`\align` コマンドは数式オブジェクトの排列の排列を一つ引数として取る。

$$\begin{aligned} \pi &= \left( \frac{2\sqrt{2}}{99^2} \sum_{n=0}^{\infty} \frac{(4n)!(1103 + 26390n)}{(4^n 99^n n!)^4} \right)^{-1} \\ &= \left( \int_{-\infty}^{\infty} e^{-x^2} dx \right)^2 \end{aligned}$$

---

---

## 1. 節

---

---

節は `+section{節題}` <段落コマンド ...>. の形式で表される。

### 1.1. 項

`+subsection` コマンドもある。

---

---

## 2. パッケージ

---

---

`@require` 指令を用いることで、`SATYSFI` 標準パッケージや `Satyrographos` パッケージを読み込むことができる。

```
@require: math
```

`@import` 指令は現在のファイルからの相対パスに存在するパッケージを読み込む。

```
% この指令は local.satyh ファイルを読み込む
@import: ./local
```